

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200876
法人名	医療法人社団醫光会
事業所名	グループホーム めだか
所在地	群馬県高崎市上豊岡町896-1 (電話) 027-344-6101

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年11月18日

【情報提供票より】(21年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	利用定員数計 9 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.66

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,700 × 日数	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 実費 円
	夕食	実費 円	おやつ 実費 円

(4) 利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はぎわら内科医院 ・ ひろかみ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員の信頼関係が構築されており、日々の生活の場において、常に話し合いを持ちながら、前向きな姿勢で利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりが自分のペースで伸び伸びと過ごされている様子からも伺い知ることができた。利用者の思いや力量を把握し、環境の整備や活動の場面づくりの工夫をしながら、その人らしく生活できるよう支援している。日常的に地域ボランティアの協力を得て、利用者の心身の活性に繋げている。職員の温かい見守りの中で、利用者がゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義の理解と活用については、自己評価は管理者が作成しており、全職員で取り組んでおらず改善されていない。異動等で職員が代わる場合には、先輩職員が指導しながら半月位共に支援にあたり、利用者には違和感を持たせないよう配慮している。介護計画の見直しについては毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度と状況の変化に応じて実施している。入浴支援では基本的には週2回、曜日を決めて入浴支援を行っているが、回数の増加を検討している。日中玄関は(午前10時から12時半を除き)施錠しているが、開錠に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、管理者が作成しており、全職員で取り組んでいない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的(2ヶ月に1回)に開催しており、事業所からサービスの状況・事故等の報告を行い、評価結果の改善策や出席者からの意見・要望を受け、話し合いを行っている。出された意見等は職員会議で報告しサービス向上に活かしており、玄関の開錠に向けてベルを設置したり、利用者が安全に戸外で過ごせるよう庭園の整備を行った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等聴くように努めている。口頭での意見等は文書にして閲覧している。意見箱を設置しており、出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。管理者が苦情受付窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の小・中学生の体験学習、専門学校生のボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議の地域協力メンバーの先生(生け花・茶道)に、手作りのクッキー等を持参して頂き、茶話会を開いている。また、フラダンスや南京玉すだれのショーも開催してもらう等、日常的に協力を得ている。地域ボランティアの慰問(ハーモニカ・大正琴等)の受け入れを行っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義や役割を職員全員で確認し、事業所独自の理念を掲げている。地域生活の継続支援とボランティアの活動を積極的に受け入れ、地域との交流を大切にしたい運営を心掛けている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、ケアの方向性を確認しながら職員会議等で話し合い、日々の生活の場において、理念に沿ったケアの実践に向けて取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中学生の体験学習、専門学校生のボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議の地域協力メンバーの先生(生け花・茶道)に、手作りのクッキー等を持参して頂き、茶話会を開いている。また、フラダンスや南京玉すだれのショーを開催して頂く等、日常的に協力を得ている。ハーモニカや大正琴等の慰問の受け入れを行っている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、職員会議等で話し合い、具体的な改善に向け取り組んでいる。今回の自己評価については、管理者が作成しており、全職員では取り組んでいない。	○	評価を実施する意義を理解し、自己評価についても一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直しが可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組み、まとめたものを管理者が記載してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所からサービスの状況・事故等の報告を行い、評価結果の改善策や出席者からの意見・要望を受け話し合いを行っている。出された意見を職員会議で報告し、サービス向上に活かしている。玄関の開錠に向けてベルを設置したり、利用者が安全に戸外で過ごせるよう庭園の整備が行われた。	<input checked="" type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、市の介護相談員の受け入れを行っている。地域密着型サービス連絡協議会等で行われる市町村参加の会議等に積極的に参加し、解らないこと等は市の担当者に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や現況等を伝えている。また、必要に応じて電話での相談や報告を行っている。毎月、事業所の様子等が記載されている法人誌「ケアピース便り」を家族等に送付している。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等聴くように努めている。口頭での意見等は文書にして閲覧している。意見箱を設置している。出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。管理者が苦情等受付窓口になっており、行政機関等の窓口も文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等で職員が代わる場合は、利用者・家族等に説明し、運営推進会議で報告を行っている。新しい職員には、先輩職員が半月位指導しながら共に支援にあたり、利用者には違和感を持たせないよう配慮しながら、早く馴染んでもらえるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、法人内外の研修を受ける計画をたて、職員は交代で参加している。法人内研修(アサーション・接遇・若年性アルツハイマーの講演会等)やグループホーム大会・研修等に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、研修会に参加したり、大会に参加し研究発表を行っている。系列の地域の事業所との交流を密にしながら、相互の活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族等に見学して頂き、ホームの雰囲気や特徴を知ってもらい、本人が納得した上で利用できるよう支援している。入居後も職員や他の利用者とのコミュニケーションに気を配り、家族等にも電話をかけて頂いたり、面会を多くして頂く等、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽を共にしながら協働し、感謝の気持ちを持って生活している。また、人生の先輩として日常の生活場面で利用者から教えてもらうことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わり合いの中で、本人の言葉や表情等から意志や希望を推し量り、把握するように努めている。困難な場合には、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等の思いや意見を聴き、職員会議等で取り入れ、ケアカンファレンスで意見交換を行い、それぞれの意見等を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。月1回モニタリングを行い、職員間で意見交換を行い、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望や状況に応じて、受診・通院介助や買物支援等、柔軟に対応している。外出行事には、併設施設のワゴン車を使用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関とも連携を図っており、月1回往診を受けている。週1回訪問看護師が、利用者の健康指導等を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約書の中に「看取りの指針」を明記している。入居時に本人・家族等に説明し同意を得ており、方針の統一を図っている。状態の変化に伴い、家族等ならびにかかりつけ医や訪問看護師等とその都度話し合い、家族等の意向を確認しながら、納得の行く支援をするよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に配慮しながら支援している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、掃除・体操・散歩・テレビ・読書等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、配膳や下膳、テーブル拭き等、日課として職員と一緒にやっている。職員は見守りや介助をしながら利用者と一緒に食事をしており、楽しい雰囲気づくりを大切にしている。外食に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、週2回(月・木曜日)入浴支援を行っている。入浴支援を週3回に増やせるよう職員で検討している。利用者全員で磯辺温泉の足浴に出かけ楽しんでる。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援をしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、掃除・洗濯物たたみ・配膳・下膳等の役割を持ち日常的に継続できるよう支援している。新聞の購読・ぬり絵・ちぎり絵・ジグソーパズル・書道・茶話会・お菓子づくり・生け花・誕生会・ボランティアの慰問等で楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ散歩に出かけたり、庭での外気浴を行っている。庭には花壇があり、テーブルや椅子も設置され、利用者が読書をしたり、歌を歌ったり、花の水遣り・掃除等を行っている。買物やドライブ、月1回の外出ツアー(初詣・季節の花見・梨狩り・足浴・県庁見学・外食等)等に出かけており、日常的な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の強い利用者があるため、日中玄関は(午前10時から12時半を除き)施錠している。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した避難誘導訓練、消火訓練を実施している。訓練には近隣住民も参加している。自動火災通報装置、スプリンクラーが設置されている。マニュアル・緊急時連絡網を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を個別に記録し、職員は情報を共有しながら支援している。食事の栄養バランスを考慮している。月1回、体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく開放感があり、天窓からは新鮮な外気を取り入れている。玄関、ホールには観葉植物や生け花を美しく飾り、壁に行事の写真・利用者の作品(ぬり絵・ちぎり絵)等を掲示している。ホールから厨房で調理している姿が見え、食事づくりの音や匂いを感じられる。利用者が安心して戸外で過ごせるよう庭が整備され、外気浴や花壇づくり、読書等を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、箆笥・衣装ケース・椅子・家族の写真・寝具・帽子・化粧品・本人が塗ったカレンダーや書道の作品等、馴染みのあるものや好みものが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		